

地域の特徴に応じた10技術紹介



土木研究所は10日、福岡市の天神ビルで、建設コンサルタンツ協会九州支部と新技術ショーケース2009 in九州を開いた。九州での開催は04年度以来5年ぶり。ものづくり日本大賞（内閣総理大臣賞）を受賞したインバロワン工法を始め、九州の特徴に応じて利用しやすい技術10点を紹介した。行政や民間企業などから約150人が参加した。

土木研と建コン協九州 新技術ショーケース

冒頭、あいさつした土木研究所の坂本忠彦理事長は「研究所が持つ特許の数は400件程度あり、数では、独立行政法人になった国立の研究機関で1、2位を争っている。ゼネコンやメーカーなどの共同研究制度を設けているため実用性が高いのも特徴だ」とし、今回紹介する技術への自信を見せた。写真。

「鳩山政権になり、公共事業費の縮減は必至だ。しかし、単に事業量を縮減されるといった発想ではなく、新技術による品質確保を常に念頭に置かなくてはならない」と呼びかけた。

ショーケースでは、共同開発者と協力し、研究開発を通じて得られた行政・社会ニーズに応

える土木研究所開発技術について、道路と河川、下水道、斜面防災の4分野から10技術を紹介した。また、会場では、開発技術の個別相談なども実施した。

紹介された10技術は、次のとおり。

- 〈道路〉掘径型アンカー工法（軟弱地盤用アンカー技術）▽NEW高耐久マイクロパイル工法▽インバロワン工法（鋼橋等鋼構造物の塗膜除去技術）。
- 〈河川〉防災のための浅部地盤構造調査▽アドバンスドテレメトリシステム（生態行動自動追跡システム）▽高濃度酸素水を用いた湖沼等の底層水質改善技術。
- 〈下水道〉みずみち棒を用いた下水汚泥の重力濃縮技術▽下水汚泥の過給式流動燃焼システム。
- 〈斜面防災〉既設アンカー緊張力モニタリングシステム▽地表面変位ベクトルから地すべりのすべり面を推定する技術。